

紙版 **ハコブネ×ブックス** vol.43  
<https://hakobune.wp-x.jp>

ハコブネ×ブックスは児童文学作品・YA作品を未来に語り継ぐ web サイトです。



一瞬を生きる君を、僕は永遠に忘れない。

作者 冬野夜空  
 出版社 スターツ出版  
 発行 2020年1月  
 ISBN 978-4813708315

review



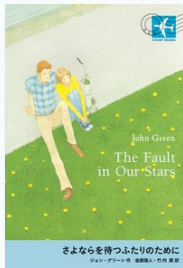
影を刻むのです。輝彦も香織の輝く一瞬を繋ぎとめる覚悟を決めます。卑屈で根暗で孤独な少年である輝彦を見守る香織の鷹揚で慈愛に満ちたまなざし。香織の想いを受けとめて、輝彦は彼女を永遠に生かすために、心にその面

同じ高校の同級生、香織に屋上に呼び出された写真部の輝彦は、自分の専属カメラマンになって欲しいと彼女に任命されます。人物写真が苦手な輝彦は、香織の一方的なモデル宣言に戸惑いながらも、香織の撮影プランにつきあうことになり。明るく屈託のない香織と地味で愛想の良くない輝彦は真逆のタイプ。互いに君と呼び合う距離のある関係です。やがて輝彦は香織が血液の病気で余命が僅かであることを知り、入院で病んだ人たちのポートレートを撮り続け、自分も心を病み亡くなった父親から受け継いだカメラで、輝彦も香織の輝く一瞬を繋ぎとめる覚悟を決めます。卑屈で根暗で孤独な少年である輝彦を見守る香織の鷹揚で慈愛に満ちたまなざし。香織の想いを受けとめて、輝彦は彼女を永遠に生かすために、心にその面

特集

余命元年

余命を意識した時、人生がはじまります。それが余命元年です。未来ある子どもたちは、普通、自分の余命など意識しないものです。限られた僅かな時間しか残されていないと知った時はじめて、人生をどう生きたら良いのか真剣に向き合うこととなります。もしそれが友人の身にふりかかった事態だとしたらどうしたら良いのか。難病と闘う少女が僅かな余命を燃やし尽くそうとしている時、少年は自分に何もできないことを悩み、無力感に苛まれます。それでも誰かを真摯に思いやる。それも人生の始まりの時です。こうした物語には大逆転は起きません。その死を受け入れるしかないのは現実と一緒です。今紹介する作品は、おおよそ思春期を拗らせた少年たちが気丈な瀕死の少女と出会う物語です。失われる命を生かすことができるのか。その鋭い切っ先を突きつけられた少年は思い悩みながら、答えを見つけ出していきます。



さよならを待つふたりのために

The fault in our stars.

作者 ジョン・グリーン  
 翻訳者 竹内茜 金原瑞人  
 出版社 岩波書店  
 発行 2013年7月  
 ISBN 978-4001164053

review



甲状腺の癌が肺に転移して、酸素呼吸器の補助が必要となった十六歳の少女、ヘイゼル。普通の学校生活を送れなくなった彼女の交友の場は、十代で癌を患う子たちのサポートグループでした。自分の不安をユーモアを混じえて語るその集まりで、今はいない仲間たちに祈りを捧げながら、いつかは自分も悼まれることを彼らは意識しています。ヘイゼルは、ひとつ歳上の少年、オーガスタとそこで出会います。骨肉腫で片脚を失いながらも、斜に構えてカッコをつけるオーガスタとヘイゼルは親しくなっていく。自分が死ぬことで周囲の人間が心を痛めるだろうと気づかない続けるヘイゼル。オーガスタはそんな彼女を励まし、力を尽くしますが、彼の病状はヘイゼルよりも先に悪化していきます。さよならを待つ二人のために、読者は最後まで見守り続ける使命があるのです。



ぼくとあいつと瀕死の彼女

ME AND EARL AND THE DYING GIRL.

作者 ジェス・アンドルーズ  
 翻訳者 金原瑞人  
 出版社 ポプラ社  
 発行 2017年8月  
 ISBN 978-4591152744

review



自分の複雑なブライドを揺るがされるグレッグ。レイチェルの病状は進み、治療の後遺症は重く、やがて治療すら諦めなければならぬ事態に陥ります。レイチェルのためにできることは何か。グレッグは自分のキャラクターを覆す決断を迫られます。

趣味で映画を撮っていることは、誰にも知られたくない。十七歳のグレッグは渋い映画のマニアで友人のアルと二人で実験映画を作っています。それを秘密にしているのは、単なる自意識過剰のカッコつけです。十二歳の頃、ちよつとだけ付き合ったことのある同じ学校の少女、レイチェルが急性骨髄性白血病になり入院したと聞き及んだグレッグはお見舞いに行き、再び彼女と親しくなります。ところが同行したアルが、二人で映画作りをしていることをバラしてしまいます。彼女は映画を見たがり、グレッグは大いに困惑します。自分の複雑なブライドを揺るがされるグレッグ。レイチェルの病状は進み、治療の後遺症は重く、やがて治療すら諦めなければならぬ事態に陥ります。レイチェルのためにできることは何か。グレッグは自分のキャラクターを覆す決断を迫られます。

君の臍臓をたべたい

作者 住野よる  
 出版社 双葉社  
 発行 2015年6月  
 ISBN 978-4575239058

review



春樹が病院で拾った『共病日記』という題が付けられた二冊のノートは、難病である臍臓の病気の闘病生活を綴ったものでした。それが同じ高校の同級生、咲良(さくら)のものであることを知った春樹は、学校では病状を隠している彼女と秘密を共有することになります。明るく社交的で可愛らしい咲良は人気者で、春樹は孤独癖があり人と関わりを持ちたがらない変わり者。そんな二人が親しく接するようになったことは周囲を驚かせます。咲良は春樹を色々な場所に積極的に連れ出し、人と関わらせようとし、最初はいいやや付き合わされていた春樹も、余命が僅かであっても明るさを失わない咲良の姿勢に、人としてリスベクトを抱くようになります。人生を終えようとしている咲良が、これから生きていく春樹に遺したかったものとは、意外な結末と、大いなる友愛が胸を打つ物語です。



いちご同盟 (三田誠広)  
 河出書房新社 1990年

自分のこの後の人生に漠然と失望し、希死念慮のある十五歳の少年が出会ったのは、難病で余命僅かな同い年の少女でした。少年は友人と「いちご同盟」の盟約のもとに、少女のことを百歳まで忘れない誓いを結び、これからは生きていくことを決意します。自らの余命をどう生かすか。残された側の物語は今も続いています。

特集 余命元年



紙版「ハコブネ×ブックス」vol.43

2024年4月1日発行 ●発行人 きむらともお

事務系会社員。趣味で児童文学紹介サイト「ハコブネ×ブックス」(非営利)を運営しています。日本児童文学者協会第6回児童文学評論新人賞佳作他、諸々を受賞。



@tomoostretch

旧 Twitter 連携しています。